

事務局たより



第198回通常国会が開会日の1月28日、正午から13時まで「1.28 国会開会日行動」が行われた。高田健・総がかり行動実行委共同代表は「私たちの闘いで安倍政権最後の国会にしよう。そのため今国会中は、連日行動も提起する」と決意と行動を提起した。参加者は450人と発表された。国民の怒りが反映しているとは言えないかもしれない。しかし怒りを行動へと断固継続する意志がある限り、闘いは終わらない。

「真相を広める会」事務局は、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」を引き起こした加害者と安倍政権が重なってきている事態を告発し、警鐘を鳴らす行動を今年も継続していく。



宮澤弘幸 顕彰・追悼墓参ご案内

2月22日(金) 12:30~13:30

*真相を広める会事務局員が、のぼりを持って待機し、ご案内します。

「宮澤・レーン事件を考える集い」 主催:北大・戦後世代をつなぐ卒業生の会

▼とき/2月22日(金) 13:30~ ▼会場/新宿・常圓寺祖師堂地下ホール
<講演会の部> 13時30分より。参加費1000円 ①DVD上映「レーン・宮澤事件 もうひとつの12月8日」②挨拶・報告③講演・荻野富士夫氏(元小樽商大教授)
<懇親交流会> 会費3000円 同会場
問い合わせ 村瀬 090-4947-5393、泉 090-4534-1375、向山 090-4675-5483

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」 加害者は国家権力だ！

国家犯罪画策を糺し、憲法改悪阻止！

秘密保護法(2013.12.6成立、2014.12.10施行)
集団的自衛権行使閣議決定(2014.7.1臨時閣議決定)
戦争法(2015.9.19成立、2016.3.29施行)
共謀罪法(2017.6.15成立、2017.7.11施行)

これら“国民弾圧法制”を手にした国家権力は、かつての軍機保護法等と同様、国民を戦争への道へ引きずり込む。安倍政権の画策を断固阻止しよう！

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の 真相を訴える新たな資料を作成

2012年暮発足の第二次安倍政権は、国民弾圧法制と憲法無視の戦争への道を強行してきた。そして今、憲法9条を完全否定する改悪への意図を隠していない。この時にあたり、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」は国家権力による犯罪であることを再度明らかにして、秘密保護法から共謀罪法にいたる国民弾圧法制がいかに危険であるか、その廃止が憲法改悪阻止の一環であることを訴えていきたい。

この立場から、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の加害者が誰か、そして国家犯罪はどのようにして遂行されてきたかを明らかにするため、上記のタイトルで、パワーポイントによる資料を作成中である。2.22 墓参後、本会ホームページに全文を掲載する。

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」の加害者は、国家権力の総元締・旧内務省に集約される国家権力そのものである。その下で弾圧の猛威を振るったのが特高警察だった。そして組織的には独立の存在だった裁判所は、軍機保護法、国防保安法、戦時刑事特別法、戦時特別措置によって奪われた被告を、裁判の名において断罪する国家権力そのものに組み込まれたのである。

軍部隷従・国民弾圧に狂奔した道順はこうだった。

1930年代に入り、「国益」「生命線(満蒙生命線)」という言葉が権力、及び御用知識人によって多用され、国民意識を軍部隷従・戦意高揚に誘導した。

1936年ロンドン軍縮会議から脱退し無制限軍拡へ。2・26事件を経て、軍・国家にとって不快な言動を反軍・反国家思潮と決めつけ国賊化へ誘導した。

1937年、遂に日中戦争に引き込み、軍機保護法を全面改定して検挙対象を一般国民に拡大・重罰化。さらに国家総動員法(1938年)、国防保安法(1941年)など戦時新法を量産すると共に治安維持法を全面改悪して無差別かつ治安権力の恣意のままに検束を可能にした。

1941年、御前会議で帝国国策遂行要領(対米英開戦準備)を策定すると同時に、内務省指令で全国特高が「外謀」(スパイ)名目で拘束すべき不穏人物(生贄)のリストを作成し、一斉検挙に備える。

<コラム> 冤罪忘れるな！^⑩

『北海道大学 夢風景』

自費出版した北大OBの3人

副題に「北大生が見た 1950年代の札幌の原風景」とある写真集。めくると、27枚目に、口もとに静かな笑みを含んだハロルド・レーン先生の肖像が現れた。見るからに自然体の、得難い一瞬の記録だ。「はしがき」では冤罪に言及した来歴も紹介され「戦中の忌まわしい思い出を忘れたかのようにくつろいだ風貌はMさんの写真でしか見られない」と結ばれている。



写真集「北海道大学
夢風景」(上)に掲載さ
れているハロルド・レ
ーン先生
(1954年10月)

Mさんが撮影者で、3人の連携軸は北大・恵迪寮の住人だったこと。Mさんと同室の内藤裕史さんが出版を買ってで、後輩の川原幸則さんが編著者を引き受けた。原風景とあるとおり、いまは大きく景観を変えた札幌、そして北大構内の戦前・戦中の面影を残した94枚からは、今昔の感傷を超え、冤罪の加害者、被害者の足跡、息づかいまでが伝わってくる。ともすれば埋もれ、散逸する貴重な記録、3人の功と労は大きい。

◆ ◆ ◆
「スパイ冤罪事件」の真相に迫る決定版(本会編)

『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』花伝社刊

第1部=冤罪の真相 第2部=冤罪事実の条条検証
資料編=判決全文、軍機保護法全文、年表
特別添付=重要事項索引

申し込みは本会事務局までFAX・メールで(1面上部題字横に掲載)。送料税込み2300円。後払い。

第二次安倍政権が現在まで強行してきた国民弾圧、戦争への道強要の企みは、かつての道と違うと言えるだろうか。加えてアメリカ従属の下で、沖縄県民に敵対して、沖縄辺野古に米軍基地を建設して差し出すという屈辱的売国行動をとって恥じないのだ。

「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」を引き起こした国家権力の犯罪をさらに徹底的に広めていくことが急務だと言える。(福島 清)